第1回 START運営委員会 (2024年3月13日)



議題



1. START運営委員会について

- ・運営委員会の目的
- ・メンバーの紹介
- ・委員長の選任
- ·委員会及び各TFの概要説明等

2. STARTの検討課題案について

・今後の検討課題案およびスケジュールの確認

3.各TFの運営について

・次回のSTART運営委員会について

START

1.START運営委員会について

・委員会の目的

START運営委員会は、STARTの成長、グローバル化に向けODX代表取締役・取締役会の諮問機関です。市場関係者様からの意見集約を行い、その運営に活かすものです。

委員会を円滑に進めていただくために、各社より推薦していただきましたメンバーの皆さまを運営委員に委嘱させていただきました。

・メンバー紹介

大和証券株式会社	板屋 篤 様
みずほ信託銀行株式会社	岩脇 郷子 様
株式会社Progmat	齊藤 達哉 様
株式会社BOOSTRY	佐々木 俊典 様
三菱UFJ信託銀行株式会社	田中 利宏 様
野村證券株式会社	沼田 薫 様
株式会社SBI証券	松村 一也 様
株式会社SMBC信託銀行	柳瀬 伸也 様
SMBC日興証券株式会社	吉岡 伸輔 様

※五十音順



1.START運営委員会について

・委員長の選任

START

1.START運営委員会について

·委員会及び各TFの概要等

構成

START運営委員会

ODX代表取締役・取締役会の諮問機関。STARTの恒久的成長を目的とし、市場関係者からの意見集約を行う。

タスクフォース(TF)

委員会の分科会として4つのタスクフォースにて詳細議論を行う。

● 新商品の取扱い及び新市場区分の開設に係る事項等 (売買制度TF)

● 取扱銘柄に関する制度の改正に係る事項等 いました (取扱制度TF)

● 売買の清算、決済及び受託に関する制度の改正に係る事項等 (清算決済制度TF)

● 取引に関するシステムに係る事項等 (システムTF)

委員及びTFメンバーの具体的な役割

- 委員:START運営上の課題への対応に関して、社内の意見を取りまとめ、社として見解を提示して頂く。また、対応策等が決定された後は、それを社内の業務にインプリすること等を積極的に推進して頂く。
- TFメンバー:各TFの検討項目に関して、専門的な知見を有しており、その知見を活かして建設的に議論を進めて頂く。各TFの座長はODXの各部門責任者とさせて頂きます。



・今後のSTARTの検討課題案およびスケジュールの確認

課題へのご意見につきましては、後ほど質問票をお送りさせていただきますので、社内で詳細をご 検討いただき、事務局へお寄せ下さい。

		優	最短の想定スケジュール				
検討課題案	主な検討項目案	先 度	2024年度 上期	下期	2025年度 上期	下期	
1.社債の取扱いへの対応	・利払いに係る売買停止期間の調整。 ・不動産STとの相違点を中心に未検討/未解決事項の 洗い出しを行い、清算・決済手順を確立。 ・社債取扱いにおける証券コードの取扱いについて、一定 の合意を図る。	Α	★運用開始				
2.契約締結前書面の標準 化(社債)	・社債に関しての標準化を整理。	Α	★ 運用開始				
3. 既発行銘柄の取扱促進	・既発行銘柄の取扱促進に当たって必要となる標準化項目の検討。	Α	★ 運用開始				



			最短の想定スケジュール				
検討課題案	主な検討項目案	先度	2024年度 上期	下期	2025年度 上期	下期	
4.DLP制度の見直し	・低流動性、かつ、板寄せのみ取引における有効なマーケット・メイクの「考え方」の整理を検討。 ・現状は任意であるDLP名の公表について、国内外の主要市場の例に倣って、原則、全DLPの名称の公表に変更の要否ついて検討。	Α	検討	★運用開始			
5.クオサイ取引参加者に係る清算決済実務の整理	・清算委託契約の標準化。 ・資金清算、ST決済のフロー整理。(スタンダード、クオサイそれぞれの合理的な事務手順を策定)	Α	検討	★ 運用 開開 始			
6.募集時の有価証券届出書へのリスク情報等の記載内容についての改善	・有価証券届出書へのリスク情報(個別銘柄のリスク、 START売買におけるリスク、ブロックチェーンのリスクなど) について、セカンダリーに参加する投資家目線での再整理。 ・リスク情報の記載に係る「考え方」の取りまとめを指向。	Α	検討	★運用開始			



		優	最短の想定スケジュール				
検討課題案	主な検討項目案	先 度	2024年度 上期	下期	2025年度 上期	下期	
7.信用取引制度の導入	・仮需の創出による流動性の向上を図る。 ・貸STが無いとマーケット・メイクが、親引けを受けた者に限定されてしまい、機能し難い。 ・貸ST、証券担保融資の組み合わせにより、何処までの制度設計を行うかは要検討。(別紙参照) ・過度な投機性を排除する仕組みの検討。	Α	制度設業務構		★運用開始		
8. 顧客預かりSTの他社口 座への移管手続き	・ST投資家の利便性向上の為に、株式等の既存商品の口座移管事務を参考に、取引参加者間及びPFとの合意(可能であればルール化)を指向。 ・スケジュールの統一化。(受付⇒移管先への連携⇒移転記帳) ・授受する帳票(Internalな伝票)の共通様式策定。	Α	制度設業務構		★運用開始		
9. 銘柄名称、銘柄略称の 運用整備	・複数不動産案件において、マーケティング視点で名称が 決められる傾向があるが、その点について投資家保護の観 点から検証し、ベスト・プラクティスの策定を指向。 ・長尺銘柄の略称についての考え方を整理。	Α	検討	★運用開始			



			最短の想定スケジュール				
検討課題案	主な検討項目案	先度	2024年度 上期	下期	2025年度 上期	下期	
10.契約締結前書面の標 準化(START銘柄)	・START取扱銘柄に関しては、銘柄審査・管理や売買において、上場有価証券に類似する運用がなされていることを踏まえ、可能な限り早期に金商業等府令80条の改正を促し、上場有価証券等書面と同等の扱いとなるよう金融庁、日証協への働き掛ける母体として機能させる。	Α		検討	★当局へ働きかけ開始		
11.適時の情報提供ガイド ラインの見直し	・適時の情報提供に関して、運用実績を踏まえ、ベスト・プラクティスの構築を目指す。	В		検討開始			
12.NISAへのST商品の組 込み	・投資家が少額から投資でき、中長期を見据えたポート フォリオを構築するための新たなアセットクラスを拡充する観		B 検			* 2 0 2	
	カオリオを構築するにめの新たなアセットクラスを拡充する観点から、一定の要件のもと新NISA制度に適合するアセットクラスにデジタル証券を加えて頂けるよう日証協へ要望する。 ・規制上の論点とリスクとなる場合の低減策。	В		検討	+	合わせて提示6年度の税制改正要望に	



			最短の想定スケジュール				
検討課題案	主な検討項目案	先 度	2024年度 上期	下期	2025年度 上期	下期	
13.外貨建て商品の取扱い	※外貨建て商品の打診を受けているが、現時点では具体的な商品性が見えないため論点を絞れない。よって、ある程度具体化したところで、議論を始める予定。	В					
14. Trading GUIの利便 性向上	※運用実績を踏まえ、Trading GUIの利便性向上として 取り組むべき事項の検討を行う。	В					
15.決済明細確認システムの利便性向上	※運用実績を踏まえ、Trading GUIの利便性向上として 取り組むべき事項の検討を行う。	В					
16.ザラバ取引の導入	・ザラバ取引の導入について、その要否、及び導入する場合には、課題の洗い出しを行う。	В			検討		
17.決済期間短縮に向けて の取り組み (T+1、T+0あるいは RTGS)	・Ph-2におけるST⇒SCのRTGS実現に向けて、課題の洗い出しを行う。	С			検፤	4	



3.各TFでの検討課題について

